

## 柏崎税務署管内税務協力関係団体協議会長賞

### 『生活を支えてくれる税金』

柏崎市立第二中学校 三年 高木 彩愛

私の祖母は「血小板減少性紫斑病」という国が指定している難病を患っている。血小板減少性紫斑病とは体内の血小板が減少し、けがや手術をした時に血液が止まらなくなる病気である。祖母はこの病気について私にいろいろ教えてくれた。一つ目は治療薬について。祖母は薬を飲んで血小板の値をコントロールしているが、この薬がとても高いと言っていた。一粒約二千三百円、一回に三錠、一日三回飲まなければならない。月に換算すると約六十二万円かかるそうだ。二つ目は医療費の助成制度について。治療には高額なお金がかかるが「高額療養費制度」や「指定難病医用費助成制度」などの助成制度を利用することで、負担が軽減されていることを説明してくれた。

祖母はこのような日本の仕組みによって現在は普通の暮らしができています。母は私に「日本の医療費など社会保障費には税金が使われている」と教えてくれた。これが医療費と税金なんて深く考えたことがなかったがどのように関わっているのか気になり調べてみた。

まず高額療養費制度について調べた。高額療養費制度とは、医療機関や薬局の窓口で支払った額がひと月で上限額を超えた場合に払い戻される制度のことである。次に指定難病医用費助成制度とは、国が指定している病気に該当すると指定難病の患者が持つ受給者証により、自己負担額を軽減することができる制度である。これら医療の財源には保険料が五割、税金などの公費が四割、患者の自己負担額が一割と、税金が使われていることが分かった。これまで税金についてあまり深く考えたことがなかったが、税金により命が繋ぎ止められている人がいることを知った。そして祖母もその一人である。

医療費について調べているうちに、医療や年金、介護などの社会保障費が税金の約三十三パーセントを占めていることを知った。今の日本は少子高齢社会であり、この社会保障費に多くのお金がかかっている。また、少子化により人口が減少しており、制度を維持するため、若い世代の負担が増えているなど、課題も多い。しかし、この社会保障はすべての国民の生活を支える大切な仕組みだと思う。今の私は、健康であり、風邪を引いた時しか病院にかからない。しかし、世の中には私の祖母のように社会保障の制度により、助けられている人もいます。以前、重症でないにもかかわらず、救急車を呼ぶなど税金無駄遣いが問題になっている、というニュースを見たことがある。大切な税金で支えられている制度であり、維持していかなければならない制度であるため、税金の無駄遣いはやめなければいけないと私は強く思う。そして祖母にはいつまでも元気で長生きしてほしい。